

## 令和3年度第2回さいたま市青少年宇宙科学館運営委員会 会議録

### 1 開催日時

令和4年3月18日（金） 15時00分から16時30分

### 2 開催場所

青少年宇宙科学館 2階 団体抛室

### 3 出席者

#### 【委員：8名】

- ① 中島 雅子 委員長
- ② 大向 隆三 委員
- ③ 溝口 景子 委員
- ④ 平川 和明 委員
- ⑤ 木村 良治 委員
- ⑥ 長嶋 美知子 委員
- ⑦ 豊田 由香 委員
- ⑧ 上原 一孝 委員

#### 【事務局：4名】

- ① 千葉 裕（生涯学習部長）
- ② 引間 陽子（参事兼青少年宇宙科学館長）
- ③ 金子 祥大（青少年宇宙科学館事業係長）
- ④ 森田 貴次（青少年宇宙科学館館長補佐兼管理係長）

### 4 欠席者

佐久間 由記委員、富田 英雄 委員

### 5 議題

- (1) 令和3年度事業報告について
- (2) 令和4年度事業計画について

### 6 審議内容

- ・ 議題（1）令和3年度事業報告について、事務局より配布資料（PowerPoint 資料1～5）に基づき説明した。

大向委員：「ワクワクワークショップ」のイベントについて、参加した人数はどのくらいか。また、「中高生ボランティア」は、資料（５）②の中学校・中等教育学校・高等学校の生徒の数でよいのか。募集の仕方はどのようにしているのか。資料（４）の「ボランティア」と記載のある事業のボランティアは一般の専門的なボランティアなのか。そのボランティアはその事業にどのくらいの人数が関わっているのか。

金子係長：「ワクワクワークショップ」のイベントについて、「カラフル！オイルモーション」は１週間で２，８５４人、「ピカピカ！蓄光スライム」は３日間で１，３５４人、１０日間で４，２０８人の参加人数となりました。「中高生ボランティア」は、ご指摘のとおりです。「博物館実習生」は、１０日間の活動で約３０名の実習生が１０名程度の３グループに分かれて、中高生ボランティアと一緒に実習生が主導する形で実施しました。募集の仕方は、各学校に募集要項とポスターを６月前半頃に配布しました。さいたま市以外の学校の子どもたちも参加できることから、ホームページで募集要項を掲載しました。希望日に電話で申し込む形で応募定員人数に達するまで募集しました。資料（３）の「ボランティア」については、一般の方たちのボランティアになっております。ボランティアは４団体あり、「身近な科学探検の会」と「くらしか」の２団体に、１年間に３回から４回の実験教室を実施してもらいました。定例の土曜日ワークショップは「彩ねっと」と、当館で募集している「科学館ボランティア」の２団体で実施しました。

大向委員：『カラフル！オイルモーション』の２，８５４人と、『ピカピカ！蓄光スライム』の１，３５４人は、子どもたちと付き添いの親も含まれている人数ですか。

金子委員：そのとおりです。

大向委員：「中高生ボランティア」の人数は把握できたが、実際どのくらいの時間、従事したのか。

金子委員：午前は９時３０分から１１時４５分まで、午後は１時１５分から３時３０分または４５分までが、活動時間になります。１日だけではなく、２～３日間の希望の日程を聞いて参加してもらいました。

大向委員：大学生のボランティアの参加はできますか。

金子係長：夏休み中の中学生や高校生を対象としているので、大学生であれば、「科学館ボランティア」ということで年に2～4回実施している募集している定例の土曜日ワークショップなら参加できます。

大向委員：ありがとうございました。

豊田委員：資料2（3）③の「若田名誉館長杯ローバーロボット大会2021」について、「小学生の部16チーム」と「中学生の部19チーム」となっているが、最高何チームまで参加予定だったか。また、この事業の内容の詳細を教えてください。

金子係長：コロナ対策、また保護者も見られる環境を作ることから、青少年ホールの定員数300人を超えない程度と考えて、16チームと19チームに設定いたしました。応募数は、小学生の部では16チームの2倍程度の応募がありました。中学生の部は部活動での参加等がありました。今後ですが、制限が解除されれば通常どおりの開催を考えていますが、開催日当日に人数制限などの制限がかかって実施ができないことになってしまうと子どもたちが可哀想になってしまいますので、制限下においても今年度は実施いたしました。今年度も埼玉大学の先生方にも例年どおり審査や評価の協力をいただいております、また、大学生の方にも審査の協力をいただいております、大学との連携により実施していきます。

豊田委員：練習は前もって行ったのか。

金子係長：8月1日から2週間、お盆前までは団体抛室で練習会を行いました。部屋の中に滞在する時間を少なくすること、決められた時間の中で収めるということとし、少しコースを短くして実施しました。今年度実施した結果、もう少し難易度を上げてても時間的には余裕がありそうなことから、新たなコースを設定し来年度実施しようと考えております。

豊田委員：ありがとうございました。

上原委員：広報と応募方法について、ホームページの発信状況について教えてください。また申し込み方法はメールでの応募は検討しているのか。

金子委員：広報についてですが、ホームページで2か月先の情報を掲載するように意識して進めています。当館は、新しいプラネタリウム番組や企画展などのチラシを作成し、各小・中学校に配布しています。そのことにより、各家庭にも情報が届くようにしています。館内アンケートを取っていますが、「何でその情報を知りましたか。」に対しては、約8割以上の方から「チラシで。」という回答が多かったです。やはりチラシの効果は非常にあると認識しています。また申し込み方法についてですが、例えば中高生ボランティアについては日程の調整があることから、1日約5名の午前・午後で募集しています。他の方法で申し込みをいただくと調整が不可能になってしまうことから、電話で応募していただいています。その他につきましては、往復はがきを使用して募集をしています。往復はがきは「時代にそぐわない」という意見や、消印有効の期限が切れてしまってなかなか参加ができないということがありました。ウェブだとギリギリまで応募ができることから、今年度実施した、対象が小・中学生の「若田宇宙飛行士アカデミーロボットコース」はウェブで募集しました。また、人気のある「天体観望会」は、電話で応募しようにも電話が繋がらないから申し込めないという声があり、平等に抽選ができるということから、電話から往復はがきに変更しました。ウェブのみの応募にすると高齢の方からすると、「使いづらい」、「応募しにくい」ということもあり、全部の申し込みをウェブにするのは難しいから、ニーズ・対象にあわせて少しずつウェブに変えていこうとは精査・検討しています。

上原委員：ありがとうございました。

平川委員：「ウェブと往復はがきとの併用」は検討していますか。

金子係長：事務が煩雑にならなうように今は方法を一つに絞っていますが、併用するのも一つの考え方としてとらえ、検討してまいります。

平川委員：以前水ロケットを的に当てるイベントを実施していたが、ロケットを打ち上げて的に当てるというのは少し問題があるので、今後このようなイベントは止めてもらいたい。

引間館長：承知しました。ワークショップを実施している相手方と連絡し、やり方を検討いたします。

中島委員長：資料2（2）②のアンケートについて、このアンケートは誰に回答してもらったのか。子どもたちなのか、担当の教員なのか。

金子係長：担当の教員になります。子どもたちの活動状況や様子を見て教員が評価する学校や、学校独自で活動後に子どもたちにアンケートを取ったり感想をまとめたものを鑑みて評価している学校もございます。

中島委員長：子どもたちの生の声も大事だと思う。子どもたちの生の声が聞けるようなアンケートを実施してもらいたい。

引間館長：1年越しの学習投影ということもあって、学級だよりや学年だよりに子どもたちからのアンケートや感想を掲載し、それを当館に送ってきてくれる学校がありました。中島委員長指摘のとおり、生の声の大事さは痛感しておりますので、検討してまいります。

豊田委員：アンケートの件ですが、今子どもたち1人1台タブレットを持っていて、アンケート機能ですぐ子どもたちは答えられる状況であります。このアンケート機能を利用すれば、生の声が聞けるのではないかと。

中島委員長：そのような機能があるのなら、それを活用してみてもいいでしょうか。

- ・ 議題（2）令和4年度事業計画について、事務局より配布資料（PowerPoint 資料10～32）に基づき説明した。

豊田委員：若田ミッションについて、是非応援していきたい。子どもたちに夢を伝えていただき、若田宇宙飛行士の凄さを伝えていただきたい。子どもたちと同時に先生たちも育てていただきたい。先生方から子どもたちに伝わることも多いと思います。科学の好きな子どもたち、宇宙を目指す子どもたち育てる幅広い環境を作るためには、さいたま市の先生方にもその環境を勧めていただき、先生方を育てていただけると子どもたちに伝わると思います。

溝口委員：保護者も何か興味を持てるような、全体で子どもたちを育てていけたら良いと思います。

上原委員：講演では受け取る側はいろいろな興味がわいてきて、紙面や編集された動画

などがあると違うと思いますので、今回の取組を全市的に広報していただき、目玉の事業にしてもらいたい。

長嶋委員：幼稚園で以前科学館を利用した際に、子どもたちがとても感動していた。幼稚園はどうしても他の行事に引っ張られ、科学や宇宙に対して先生方の興味が追いついていない状況だったが、以前の利用で先生方の目が変わった。他の幼稚園の先生方にも声掛けをしたいと思います。また、応援プロジェクトを是非やっていただきたい。

千葉部長：若田宇宙飛行士ミッション応援プロジェクトについて、科学館のスタッフと「広報はしよう」という話になった。どうやって子どもたちと教員と保護者を含めた市民に効果的なPRができないか協議した。例えば、マスコミに投げてどこまで拡がるのか。校長会で説明する、それだけでは足りないのではないかと。理科主任に火を点けてみてはどうか。チラシが届くだけではなくSNSで届けるのは。いろいろ考えてみた。皆様それぞれの立場で、こういう材料を出してくれれば拡げられるのかとも思われる意見があったら是非伺いたい。

上原委員：学校と保護者との専用メールがある。それを活用すると、保護者から口コミによりSNSなどで拡がるのではないかと。

溝口委員：学校のホームページにインスタなどのリンクが貼ってあれば、かなりの確率でクリックしてくれるのでは。あとはネットで引っかかる方法を考えては。

長嶋委員：今の人たちは活字に興味を示さない。「こういう動画を流してください」というのがあれば対応はできる。

平川委員：市のホームページを使うのが良いと思う。あとは幅広く考えるなら、Twitter、TicTok、インスタ、Youtubeになると思う。Youtubeであればメンバーシップ登録があったりとか、最後Lineに登録してもらい、最後クローズのところでメンバーとして入ってもらいと定期的に情報を強く渡すことができる。

平川委員：宇宙に関する概論について話が聞ける機会がありますか。

引間館長：講演会でお話していただく機会がありますが、そこまではできていない。

平川委員：宇宙飛行士はすばらしい職業ではあるが、いろいろな形で宇宙に関わっている方の話も聞きたいと思っている。

引間館長：若田宇宙飛行士アカデミースペースコースのアドバンスの中では、清水建設の方に来ていただいたり、宇宙ゴミを扱うアストロスケールという企業の話の聞いたりするコースの事業を実施しています。このコースを通して専門的な分野も子どもだからといって片づけしないで、概論に繋がるような宇宙への関わりについての話を聞ける機会は効果的と感じています。引き続き企業、NPO、大学、専門的に強い方たちから話を聞く機会を設けていきたいと思っています。

- ・ 議題（3）その他

中島委員長：何かございますか。

事務局：特にございません。

## 7 閉会